

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	池永
日 時	平成28年2月16日(火曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 04 分
出席委員	明田 馬場 酒井 奥村 富谷 平本 小松		
理事者 出席者	【健康福祉部】小川部長 [地域福祉課] 佐々木社会福祉担当課長		
事務局	池永		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 - 名	議員 -

会 議 の 概 要

1 開 議

2 案 件

(1) 改定亀岡市地域福祉計画について (健康福祉部)

[理事者入室]

< 明田委員長 >

1月15日の月例時に、改定地域福祉計画の中に子どもの貧困についての位置づけを入れるように常任委員会として申し入れをすることとなった。本日は、申し入れをした結果の報告を受ける。

< 健康福祉部長 >

改定亀岡市地域福祉計画は、本年度に策定すべく、学識経験者や関係者等からなる委員会を開催し進めてきたが、1月15日に本常任委員会から子どもの貧困についての申し入れがあった。市として協議を重ね、2月2日に委員長・副委員長に説明し、本日の報告となった。

< 地域福祉課社会福祉担当課長 >

子どもの貧困について、改定地域福祉計画に入れていこうという申し出をいただき、子どもの貧困という観点から改めて計画内容の見直しをした。策定委員長にも相談し、事務局でも検討し、内容を盛り込むことになったので報告する。今回の修正に関係する部分のみであるが資料を配付した。これに基づき説明する。

[地域福祉課社会福祉担当課長 説明]

< 地域福祉課社会福祉担当課長 >

地域福祉計画は、理念・指針を作る計画と考えており、基本的には課題別に計画を組み立てている。そしてその課題を、それぞれ個別の計画で具体策に落とししていくという考え方であり、地域福祉計画の中での子どもの貧困については、このような形となった。申し入れにより、我々の考えている取り組みをより一層分かりやすく書けたと考

える。今回の申し入れについてはお礼を申し上げたい。今後、地域福祉計画については、今月に最終の策定委員会を開催して最終調整を行い、計画を策定する予定である。計画ができれば、議員にも配付を予定している。

～ 13 : 42

< 明田委員長 >

申し入れを真摯に受け止めて盛り込んでいただき、お礼を申し上げます。質疑はあるか。

< 奥村委員 >

P9「障害児・者」は何と読むのか。

< 地域福祉課社会福祉担当課長 >

「しょうがいじしゃ」と読む。

< 奥村委員 >

中点をいれるものなのか。

< 地域福祉課社会福祉担当課長 >

入れる例が多いように思う。

< 酒井委員 >

地域福祉計画は理念で、全体のことを決めているということであるが、福祉や教育の個別の計画の中に「子どもの貧困」という文字が出ていない中で、この計画に入れていただいたということは、市民にとって分かりやすいだけでなく、他の個別の計画を作る部署にとってもよく分かる内容になっていてありがたい。我々も個別の政策を見ていく中で、子どもの貧困という視点を重く持って見ていきたい。

< 馬場副委員長 >

地域福祉計画は、10年来のスパンで亀岡市の変化を見ていることが評価できる。しかし逆に言うと、行政の側、サポートする側が、状態が分かるがために、のめり込んでしまう。それを客観視して、全体に生かしていく方策は。現場でつかんできたことを集団に生かすような取り組みは。

< 地域福祉課社会福祉担当課長 >

具体的にどうということはないが、計画の策定にあたって10年スパンの分析をする中で、普段、民生委員や社会福祉協議会から聞いている意見が、確かに数字で表れていることを強く実感した。こういう感覚が行政には必要だと感じた。今後、民生委員や社会福祉協議会への支援の中に、この考え方を生かしていけると考える。

[理事者退室]

～ 13 : 46

(2) 病院事業について

< 明田委員長 >

病院事業について。1月15日に新院長と面会した。今後どのように病院に対して活動していくのかを議論したい。

< 奥村委員 >

先日、新院長からいろいろと今後のことも聞いた。また内々に、平成28年度は、交付税に関連する部分については繰り出しをするが、それ以外は一切、一般財源からの繰り出しをしないような予算立てが確定しそうな感じで聞いている。今後、病院の努力も期待できる。医師も増えると聞いているので、しばらく状況を見ていかなければならない。

< 明田委員長 >

考え方としてはそういう考え方ができる。

< 酒井委員 >

院長から病院の経営について突っ込んだ話が聞けて良かった。ただ、我々は亀岡市民にとっての市立病院という観点で見ていく必要がある。病院そのものの経営だけではなく、市民にとっての市立病院はどうか。交付税措置がある分だけの繰り入れになるかもしれないが、いずれにしても税金を投入するには、そういった説明ができるように、委員会として見ていきたい。

< 平本委員 >

酒井委員が言われたような病院のあり方というのが1つだと思う。病院利用者へのアンケートはされているが、なぜ市民が使わないのか、どうすれば市民のニーズがつかめるのかを今後の課題として取り組んでいきたい。

< 酒井委員 >

院長は、利用者以外にアンケートをしている病院が他にあるならば聞きたいと言われていた。ただ、市の税金の使い方を見ていくにあたっては必要なことである。府の調査結果のみで、それぞれの病院の位置づけを考えるだけでは足りない。何か方策を検討していければと考える。

< 富谷委員 >

病院も管理体制が変わるということで期待している。予算付けは見えていないが、繰り入れをしなくてもよいという根拠がある予算付けだと思うので、今後、経済的なことには期待したい。アンケートについては、やはり利用者だけでなく、市民ニーズを把握する必要はあると思う。例えば、自治会に病院に対しての投書箱を設置するなど、いろいろな方法はあると思う。市民のための病院なので、市民の要望を聞く手だてをする必要があると考える。

< 小松委員 >

他市で、利用者以外を含めた一般市民に向けて、公立病院の良いところや悪いところ等についてアンケートを取っているところもあった。玉井院長は病院の経営は熱心にしていかれると思うが、亀岡に来られてまだ一年なので、ニーズが分からないと思う。個人的には市立病院への要望は聞くが、より広く聞いていくことが大事だと考える。アンケートの実施をしてほしい。

< 明田委員長 >

今までの病院の考え方は、患者が対象で一般市民が対象ではなかった。そういうことをやろうとすれば、内容を含めて委員会で検討していかなければならない。病院に、全市民対象だと押し付けても難しい。市役所の中に、それに適当な組織ができるのではないかと。

< 馬場副委員長 >

病院にアンケートを求めるのか、我々がアンケート項目を抽出し、委員長が言われた専門の組織で具体化するのか。サンプル数や内容、どういう層に取るのかを含め、今後検討しては。病院に行った人からはいろいろな意見を聞く。十分にやれている診療科とそうでない部分もある。それを病院自らが聞くのが良いのか、委員会として調査していくのが良いのか、検討してはどうか。

< 明田委員長 >

アンケートについては、委員会でアンケートに対する勉強もしながら、どういう項目でとるのかを含めて、今後取り組んでいけばどうか。また、まだ税金が投入されていることについては、今後、病院からの説明の際に確認してはどうか。

< 酒井委員 >

なかなか説明を受ける機会はないので、病院の経営状況は、監査に数値で報告しているようなものをこちらのレターボックスに入れていただだけでも良い。アンケートの前段には、どのくらいの市税が導入されているか、どのような役割を果たしているかを分かりやすく記載することが必要。また、税金を入れるだけの価値があるという説明ができれば良いことである。繰出金を減らすことありきではなく、フラットな状態からスタートしたい。

< 明田委員長 >

それでは、今後そのような方向で取り組むことで良いか。

< 了 >

< 明田委員長 >

次の月例の日程を決めたい。

[日程調整]

< 明田委員長 >

次の月例は4月11日(月)午後1時30分からとする。また、今言うべきかどうか分からないが、会派異動をした関係で、おそらくこの委員会から外れることになる。新しい委員長を選んでいただき、そのもとで、より活発な委員会活動を期待する。少し早いですが、1年間お世話になった御礼を申し上げます。

散会 ~ 14:04